

講義年月日 2006年3月8日

講演者 加藤 好郎氏(慶應義塾大学国際センター事務長)

テーマ 機関リポジトリ(Institutional Repository)と大学図書館

講義内容

1. 機関リポジトリとは

- ・レイム・クロウの定義「単独あるいは複数の大学コミュニティの知的生産物を取りまとめて、保存するデジタル・コレクション」
- ・クリフォード・リンチの定義「大学とその構成員が創り出したデジタル資料の管理や発信を行うために、大学がそのコミュニティの構成員に提供する一連のサービス」

2. 機関リポジトリ設置の目的

大学からの情報発信の強化 電子情報の恒久的保存 図書館の仕事 学術コミュニケーションの構造改革

3. Circle of Gift (贈与の円環)

図書館(利用、提供) 研究者 研究者(著者、読者) (論文投稿、査読、編集) 学会 学会(出版社)
(出版・発信) 図書館 図書館(収集、組織化、保存、蓄積)そしてまた 図書館(利用、提供) 研究者に
戻るといように情報が回り、誰が得をして誰が損をするということがない

4. 研究成果の増大・商業化とそれに対する対応

- ・ビッグサイエンスにより研究競争が激化 研究者数が増加 Publish or Perish 論文数の増加 刊行経費の増加 商業出版社の進出 学会誌の取り込み 吸収合併による大規模出版社の寡占化
- ・上記により購読タイトルの減少、研究支援機能の低下、大学における存在感が希薄化 大学図書館の対応 コンソーシアムによる共同購入方式の導入 SPARC 運動

5. オープンアクセス(学術論文への障壁がなく無料で、著作権保有者の許諾なしに複製ができる)への道

オープンアクセス誌 掲載論文への障壁なきアクセスを許す雑誌 完全オープン、部分的なオープン、Embargo
オープンアクセス誌のディレクター
オープンアクセス誌のビジネスモデル
著者選択モデル
セルフアーカイビング 促進するには・登録の義務化・図書館員による代理登録などの方法

著者が査読前論文、査読後論文をサーバーに蓄積し、無料で公開する行為。受け皿には個人のウェブページ、分野別、大学・研究機関別機関リポジトリがある

6. 学術雑誌と機関リポジトリ

- ・機関リポジトリの目的は、雑誌のシステムを破壊することではなく、学術機関や図書館に与える独占的な影響を弱めることにある Crow R.
- ・機関リポジトリは伝統的な学術出版を代替するのではなく、補完補足するものである Linch, Clifford A
- ・機関リポジトリや検索エンジンによって論文が無料でアクセスできるならば学術雑誌に悲惨な帰結をもたらし、結果として財政的にうまくいけなくなり品質管理と査読プロセスの崩壊へとつながる(ALPSPの声明) 共生関係(相利共生、方利共生など)が必要

7. まとめ

機関リポジトリの意義

研究者にとっては(読み手)アクセス障害 アクセス環境の改善、(書き手)リサーチインパクトの低下 インパクトの向上。 大学図書館にとっては購読タイトルの減少(財政問題) 当面は、直接的な解決策にはならない、研究支援機能の低下 研究支援の強化に繋がる、大学における存在感の希薄化 大学に置ける図書館の価値向上